

高速電力線搬送通信についての座長提案について

日本学術会議

国立天文台

近田義広

2005年10月4日

2005年9月26日高速電力線搬送通信研究会において示された座長提案について意見を述べます。

(1) 想定される電波天文観測への妨害波は、ITU 勧告769の値に対して、いまだ、数十デシベル高く、容認できないものです。

(2) ITU 勧告769をはるかに上回る銀河背景輻射の存在下で電波天文観測が可能なのは、背景輻射が変化しないことなどを利用して差し引くことが可能だからであり、そのような差し引きの不可能なPLCからの輻射は勧告769レベル以下でなければ、電波天文観測に大きな障害となり、人類の将来の福祉に役立つ科学知識の取得を妨げるものです。

(3) 「現状の電波環境程度あるいは現状で使われている機器と同程度までは、新たに雑音を加えて良い」と言う考えは、結果として「現状」をどんどん増やしますから、容認できません。

(4) また、考え方の問題として、全帯域で規制値ギリギリまで電波を出すわけではない工業製品への規制値と、PLCのように全帯域ギリギリを情報通信に使いたいものの規制値とを同列に論じなければならない理由はないと考えます。

以上、我々の子孫に残すべき科学知識の取得を妨げることのないよう、お願い申し上げます。